1. 評価報告概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	1970800189
法人名	社会福祉法人　泉茅会
事業所名	グループホームめぐみSINCE2004
所在地	〒　400-0118　山梨県甲斐市竜王644-5 電話番号　055-278-2004

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2－12号		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年10月1日

【情報提供票より】平成20年8月7日 事業所記入

（1）組織概要

開設年月日	平成16年7月14日					
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人		
職員数	15人	常勤	12人	非常勤	3人	常勤換算 1.4人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨平屋　造り
	1　階建ての　0　～　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	18,000 円	その他の経費（月額）	25,000 円
敷金	■有（ 100,000 ）	□無	
保証金の有無（入居一時金含む）	□有（ ） ■無	有りの場合 償却の有無	□ 有 □ 無
食材料費	朝食 250 円	昼食	400 円
	夕食 350 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 0 円		

（4）利用者の概要　平成20年8月7日 現在

利用者人数	17 人	男性	4 人	女性	13 人
要介護1	6 人	要介護2	4 人		
要介護3	3 人	要介護4	4 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢　平均	83.1 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	三枝病院　堀田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日　平成20年8月30日

前方に富士山、東側からは茅が岳の山峰が望める高台にあり、平成16年7月開設のA棟と、今年4月に開設されたB棟の平屋建て2ユニットの施設である。敷地内にある法人併設施設との連携を生かしながら、グループホームならではの、きめ細かい取り組みがなされている。理念である利用者それぞれの生活暦を活かし、本人らしい生活を送ることが出来る為の、「待つこと」、「本人が納得すること」を職員全員が実践している。おやつを作りながら、利用者と職員の笑い声が聞かれることからも、相互の関係が良好であることが伺える。天窓が作られているホーム内は明るく、清潔である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価の改善点については運営推進会議、職員会議において討議、改善に取り組んだ。但し、地域との交流については、住宅が点在している状況である為、積極的に自治会への参加は出来ていないが、散歩や野菜作りをすることにより、顔馴染みの関係は出来ている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

職員一人ひとりに自己評価表を渡し、それぞれが自己評価に取り組んだ。それを基に職員会議にて討議し、その結果をサービスの向上に活かしている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

メンバーは市福祉課長、地元民生委員、家族会代表、入居者、職員で、2か月毎に開催している。討議内容は、事業計画・報告、外部評価の結果報告などである。事業所の行事である花見や、ハイキングにも参加してもらっている。その中で日常の取り組みを見てもらうことにより、具体的な意見を聞くことが出来ている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族会の代表2名が運営推進会議のメンバーとなっており、会議の折率直な意見や要望が出される。また家族の訪問も多く気軽に話せる関係が作られており、それらの意見、苦情、要望等は運営に反映している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地元幼稚園児や小学生との定期的な交流を行ったり、地元ボランティアの訪問もある。道を隔てた向かいに畑を借りて野菜作りをすることにより、地域の人々との交流も生まれ、野菜を届けながら度々訪ねてくれる。自治会には加入していないが、清掃活動など連絡のある行事には参加している。

2. 調 査 報 告 書

事業所名： グループホームめぐみSINCE2004

（ 　部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者それぞれの生活歴を尊重し、自分らしく生活できる為のサポートをしていくことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に理念を共有しており、日々の実践に活かしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2か月おきに地元幼稚園児との交流会を持っている。又隣の竜王北小学校の子供達が度々訪ねてくれたり、地域の朗読、紙芝居等のボランティアによる訪問がある。民家が離れている為自治会には加入していないが、地域の活動には積極的に参加し交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価共にその意義は関係者全員で理解しており、評価結果を踏まえての改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。討議内容は事業報告、各評価を踏まえての報告、取り組み状況などである。事業所の行事である花見や、ハイキングに推進会議のメンバーも出席し、率直な意見交換が出来る関係が作られており、それらをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーでもある甲斐市高齢者福祉課長に事業所の行事に参加してもらい、利用者、職員の実際を把握してもらっている。		
４. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月に1度ホーム便りを発行、家族に近況を知らせている。小遣いは月１万円程度預かり、家族の来訪時確認してもらっている。体調に変化のあった場合は、電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、その代表が運営推進会議のメンバーとなっていて家族の要望、意見は会議の折出される。又その他の家族からは面会の折直接管理者や職員に伝えてもらい、それらの意見は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来1名だけの異動で、混乱はない。新規採用の場合は管理者が面接を行い、グループホームの職員であるための適正を見極めての採用としている。		
５. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修は年度当初1回、法人本部で開催する感染症、食中毒に関する研修は年2，3回職員全員が参加している。外部研修については費用の助成がある。その他管理者は日々の取り組みの中で、職員の資質の向上に心をくだいている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に7か所あるグループホームの連絡会が作られている。会議は事業所を順次会場として各事業所より2，3名の職員が出席し、具体的な勉強会となっている。そのほか、それぞれの事業所の様子も知ることができ、質の向上に活かすことが出来ている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
１. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設からの利用者とは交流があるため馴染みの関係が作られている。新規の方は家族と一緒に見学をしてもらい、徐々に雰囲気になれてもらう為の工夫をしている。		
２. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、職員は利用者と協働出来ることが大切と考えており、お互いを尊重し、支え合う関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の都合を優先させることなく、本人が納得するまで話を聞き、待つことを心がけている。困難な場合は、日々の生活の中で思いを把握しており、本人の意志に添った支援を行っている。		
２. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー、家族、本人、職員とのサービス担当者会議を開催し、それぞれの意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画の見直しをおこなっている。それ以前に変化が生じた場合は、その都度サービス担当者会議を開催して、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りに同行したり、利用者個々の要望には出来る限りの対応をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの協力医院である三枝病院との連携がとれており緊急の場合も対応してもらえる。従来の病院への対応は家族がしている。やむをえない場合はその限りではない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に終末期についての記述はない。管理者、職員共に、医師、家族と相談しながらの受け入れる準備はある。家族には利用開始の際、伝えている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には利用者の誇りを傷つけることのない様、周知している。トイレ誘導も小声で声かけする等の配慮をしている。個人情報は事務室の中で保管しており、取り扱いには配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望を大切にすることを第一義としており、今をどのように過ごしたいか良く聴くことに心がけ、希望にそった支援を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分達の菜園で収穫した野菜も使い、準備から片付けまで、それぞれの力を生かした役割を、利用者、職員と共に自然な形で行い食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や回数など決めておらず、一人ひとりの希望に添った入浴支援が行われている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読書、絵を書くこと、野菜作り、食事やおやつ作りなど利用者それぞれの得意なことが出来る為の支援をしている。併設施設と合同の習字教室は多数の参加がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩をはじめ、馴染みの美容室への送迎、週1回近くのお店に買い物に行く、公園に行くなど、一人ひとりの希望に添った外出支援を行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の入り口には鍵はかけていない。鍵を掛ける弊害はすべての職員が理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力の下、法人全体での防災訓練を行っている。その際ホームとして出火場所を想定しての非難訓練を行っている。緊急時の連絡網、マニュアルも作られている。それぞれの居室にはヘルメットが備えられている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人各施設の担当者と栄養士を含めて栄養委員会を月１度開催しており、利用者の意見も取り入れながら一人ひとりの能力に応じた支援が出来るよう話し合いを行っている。水分量も記録をしており確保出来ている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な玄関を入ると、広々とした廊下から居間や食堂を見渡すことが出来、天窓と大きなガラス戸から明るい光が差し込んでいる。トイレ、浴室も広く清潔である。居間には畳のスペースがあって、冬にはこたつが作られ利用者のくつろぎの場となっている。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、愛読書、たんすなどそれぞれの生活歴を活かしたもの、好みの物が置かれていたり、不必要な物は一切置かないと、それぞれ本人の希望に添った居室となっている。		